（第3種郵便物認可）　2018年（平成30年）5月17日（木曜日）　読売

シニア26人 音楽劇に挑戦

横浜 「将来オペラ演じたい」

横浜市青葉区で定期的に音楽会を開いてきたシニアの音楽愛好家が今夏、音楽劇に挑戦しようと稽古に励んでいる。音楽会が15周年を迎え、「新たな広がりを持たせたい」と、歌に加えて芝居の要素も取り入れた。指導する声楽家の酒井沃子さんは「将来的にはオペラを演じられるようにしたい」と夢を膨らませる。

音楽会は、出演者が全員65歳以上の「65歳からのアートライフ」。2003年に始まり、今年2月まで26回の定期コンサートを重ねてきた。その直後から音楽劇の準備に取り組み、過去の出演者から希望を募ったところ、市外や県外も含め26人が手を挙げた。最高齢は93歳で東京都新宿区から参加する。

劇のタイトルは「歌の地図―堀内敬三とともに」。酒井さんと親交のある演出家の加藤直さんが書き下ろしたオリジナル劇だ。

昭和期にクラシック音楽の訳詞や作曲で活躍した音楽評論家の堀内さんを取り上げるのは、「私たちの年代は堀内さんの曲を懐かしく感じるし、みな堀内さんの作品が好きだから」と酒井さんは語る。酒井さん自身、20年以上前に堀内さんの作品を集めたコンサートを開催し、好評だったことも後押しした。劇では30曲以上を歌うという。

演出家の加藤さん（右）の指導に耳を傾ける出演者ら。左端が酒井さん

「セリフにリズムを」

8月本番 白熱の稽古

「セリフにもリズムを持たせて。自分で台本を読みながら、リズムを積極的に考えてください」

5月から始まった全体練習では、演出を手がける加藤さんからセリフや動きに対する注意が何度も飛んだ。メンバーは音楽会で歌や演奏を披露してきたものの、芝居は初体験という人が大半。「セリフを言う時、客席に背を向けてもいいのか」「（他の出演者の）歌を聞いている時の表情は」などと、加藤さんに質問を繰り返す。

劇で最初の歌を担当する大林通浩さん（81）（東京都町田市）は「新しいことに取り組むという期待感から参加を決めた。歌いやすい曲なので、あまり緊張しないで済むかも」と話す。今後十数回の全体練習を重ね、個別の発声練習やグループ別のコーラス練習の指導を毎週受け、8月の本番に臨む。

東京芸大の同期で声楽家の竹沢嘉明さんとともに出演者に名を連ねる酒井さんは、「ゆくゆくはオペラを目指したいので、今回はその布石。この青葉区からシニアのオペラ団が生まれたらすごい」と期待する。

音楽劇は8月28日に青葉区民文化センターフィリアホールで披露される。